

甦る霊場

極楽浄土への入口、雄島

中世の霊場としての松島、特に雄島に焦点を当て
周辺海底から発見された板碑から中世の人々の
極楽往生・現世安穩の願いを紹介します。

展示期間 平成28年10月1日(土)～10月31日(月)

会場 東北学院大学博物館

※10月14日(金)～16日(日)は大学祭、
10月29日(土)は東北文化の日のため無料開館

開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日

日曜日、祝日・休日、大学の定める休業日

入館料

一般200円

※詳しくはHP:<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/facilities/museum/guide.html>

来館方法

地下鉄「五橋駅」下車、愛宕上杉通を南方向に徒歩5分

主催：東北学院大学博物館 TEL 022-264-6920

協力：瑞巖寺宝物館



甦る霊場—極楽浄土への入口、雄島



ごあいさつ

東北学院大学博物館館園実習の成果としてミニ企画展「甦る霊場—極楽浄土への入口、雄島」を開催いたします。中世霊場松島・雄島の姿を本学七海ゼミと共同研究を進めている瑞巖寺宝物館所蔵の採集板碑から注目される小型板碑など13点と学生手作りの解説パネルで紹介いたします。

霊場松島・雄島

今から約700年前(鎌倉時代)の松島は、瑞巖寺の前身の円福寺が鎌倉幕府と強い結びつきをもって栄えていました。そして、一帯はその美しい風景から、「浄土への入口」として名高い「霊場」でもありました。近年の発掘調査から、12世紀末ころから勝地(美しく聖なる場)で修業した高僧、見仏上人の地に納骨し、結縁することによって浄土への往生を願ったのです。



雄島と板碑

現在、雄島には60数基の板碑(中世の石製供養塔)が立っております。2006年以來の瑞巖寺宝物館と本学の七海ゼミの採集調査から、本来、雄島には600基を超える大小の板碑が造立もしくは奉納されたと考えられます。雄島は、全国最大級の板碑造立(奉納を含む)地であることが分かってきました。板碑の種子(仏を表す梵字)から大日如来、阿弥陀如来、地藏菩薩への信仰がうかがわれます。



みどころ—小型板碑発見の大きな意義

室町時代と考えられる板碑には小型の板碑が多数採集されており、最も小さいものは26cmです。石材も井内石のほか、雄勝石によく似た石が相当数あります。



このほか、禅宗で大事にされた金剛經の一節が書かれた板碑片は、瑞巖寺の前身の円福寺との関係で注目されます。

室町時代の雄島は「開かれた霊場」として、いわゆる一般大衆も小型板碑を造立もしくは奉納し、縁者の納骨を行って、極楽往生と現世安穩を願う島として繁栄していたのではないのでしょうか。



震災から「日本三景」松島の観光復興を目指す今、中世には、霊場松島・雄島として人々の祈りの場であったことに思いを馳せていただければ幸いです。